

特別の教科 道徳 授業づくり講座

第2回授業研究会(令和2年2月17日) 高知市立一宮中学校

発行 令和2年3月
高知市教育委員会
学校教育課

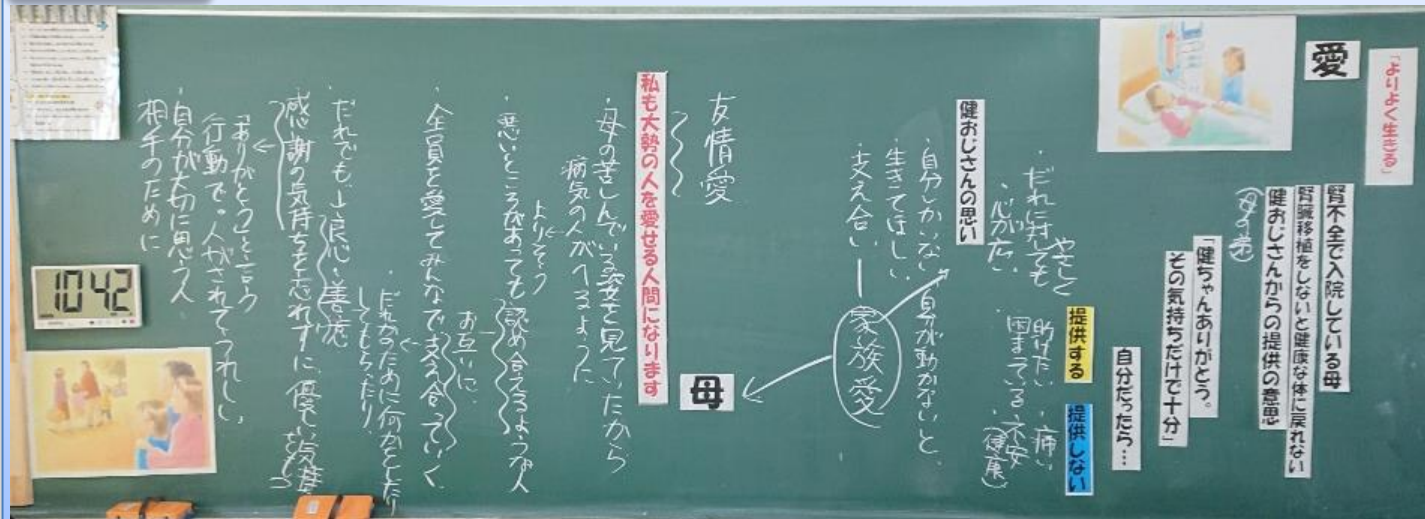
【主題名】 支え合いの中で B- (6)

【教材名】 「愛」 (「新しい道徳2」東京書籍)

【ねらい】 自分のおじさんの、姉の命を大切に思う気持ちや深い愛情について触れ、感謝の気持ちを持って過ごしていこうとする主人公の姿を通して、人への感謝の思いを素直に表現しようとする心情を育てる。

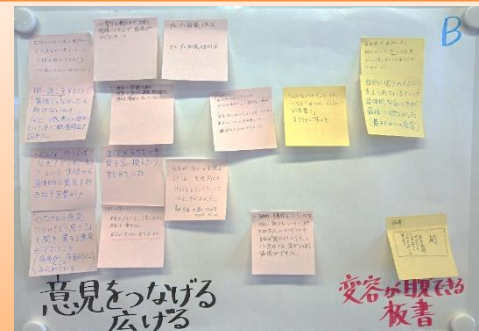
提案授業

高知市立一宮中学校 建沼 友子 教諭



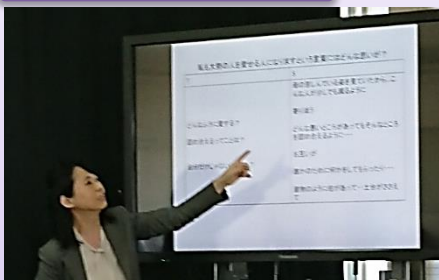
研究協議

- ☆ 心情円を有効に活用することで、生徒一人一人が自分の意見をもって、話し合いに参加する姿が見られた。
- ☆ 指導者が適宜、生徒に意図的な問い返しをすることで、本時で扱う道徳的価値を深めることができていた。
- ☆ 多面的・多角的という視点において、指導者が多くの生徒を巻き込み、生徒同士をつなげていこうとしていた。
- ★ 板書を構造的にするなど、板書の工夫によって、生徒自身が「自分も多くの人に支えられて生きている」ということによりよく気づくことができたのではないかと。



講師による指導・助言

高知大学 森 有希 准教授



例 道徳科の授業づくり 1

① 指導の要点を授業者がおさえる
(児童生徒からこういう思いを引き出したいということを念頭にもつ。押し付けはしない)

例) ■ (道徳的価値) とは何か? ■ はどのようなものか?

- 解説を読む。教材を読む。
- 他者の考えを聴く。
- 実生活での例示を考える。
- 指導の要点を指導案に書く。
- 子供の言葉で、引き出したい考えを指導案に書く。

【指導の要点】
思いやりの心の根拠には、人間に対する理解と深い共感があって、自分も他者も、共にかけがえのない存在であるということを感じて、自分も他者も、思いやりや感謝を伝える心が、自己と他者との心の絆を強くし、人間愛の精神を深めるということについて考えさせたい。

参加者の感想

- 生徒さんたちが生き生きと笑顔で、しかも活発に意見を述べていることが本当に素晴らしいと思いました。森先生のおっしゃった環境であったり、関係づくりであったり、学校全体の取組の大きさを感じました。先生の問い返しもすばらしく、それを基にどんどん生徒の意見や考え方が広がっていました。「よりよく生きる。」ためにという道徳の意味も心に残りました。沢山学ぶことがあった授業でした。
- 発問や問い返しが素晴らしく、生徒の思考が具体的に表されていて参考にしたいと思いました。生徒が友だちの言葉を言い換えて説明したり、まとめてくれたり、学級の良さや道徳の授業が好きなのだらうなあと感じられました。人間愛というところまで、どうやってもっていくかということも、本日でとても勉強になりました。
- 生徒たちがすごくよく考え、自分の言葉で発表していて素晴らしいなと思いました。日々の道徳の授業や学級経営、先生の発問がきちんと準備されているからだと思います。また、森先生のお話では、授業の具体的な場面でどうすればよいのか、どうしたことが効果的だったのかということを知ることができ、自分の授業を振り返ることができました。

議論できるようにするためのポイント 【例】

- 議論できるネタ(問)が必要
 - ・ 多様な考え、対立する意見が生まれる問いを立てる。
- 議論できるだけの時間が必要
 - ・ 児童生徒が自分たちで話し合える時間を設けている。(ペア・グループ、全体)
- 議論できる関係が必要(学級経営、他教科でも)
 - ・ 他者の意見に対する感想(同じ、違い)や質問を述べさせるようにしている。
 - ・ 他者の意見から新たに気付いたことを尋ねている。
- 議論しやすい場の環境が必要
 - ・ コの字型やグループでの座席配置